

JIM-NET 便り



2020年3月26日



NEWS

- JIM-NET ハウスでの活動 Vol.2 新人駐在員の活動レポート 牧野アンドレ (JIM-NET アルビル駐在員) P.2
- ★現地スタッフから★北イラクのクルディスタンから、こんにちは！ Vol.2 ラウンド (JIM-NET アルビル事務所) P.3
- JIM-NET ハウスで音楽ライブ！ 斉藤亮平 (JIM-NET 海外事業担当) P.5
- 2019 年度に開催されたイベント P.6-7
- チョコ募金へのご協力、ありがとうございました P.7
- KAMATA のつぶやき 鎌田 實 (JIM-NET 代表・医師) P.8



JIM-NET ハウスでの活動 Vol.2

新人駐在員の活動レポート



2019.10月～2020.2月

牧野アンドレ（JIM-NET アルビル駐在員）

日頃より JIM-NET をご支援いただいている皆さま、昨年の 10 月に入職しました、アルビル駐在員の牧野アンドレです。これまでギリシャ、日本、ヨルダンの難民支援の現場を経験し、今度はイラクという場所で働かせていただくことになりました。

東京の事務所では、周りより体感温度が高くいつも半袖で過ごしていることから「薄着のアンドレ」という異名を付けられています。

イランからのミサイルの影響で 1 月に緊急退避となり、イラクに帰れると思った途端に新型コロナウイルスの影響で今度はイラクが日本人の入国を禁止に。駐在員という肩書なのにいまだしっかり赴任できていないのですが、イラクでの活動がスムーズに進むよう現地スタッフとともに頑張っています。どうぞよろしくお願いいたします。

ここから私牧野が、ここ最近の JIM-NET の活動を紹介させていただきます！

◆ハウラの JIM-NET ハウス訪問 -10 月

9 歳で白血病を患い JIM-NET が支援していたハウラが、アルビルにある JIM-NET ハウスを遥々イラク南部のサマワから、彼女のお父さん、そして JIM-NET バスラ事務所のイブラヒムと共に訪れてくれました。

チョコ募金 2020 の缶デザインも描いてくれたハウラ、現在は 23 歳になり大学で会計学を学んでいます。JIM-NET ハウスでは彼女の大好きな絵を子どもたちに教えてくれて、さらにはお父さんと一緒に、白血病を克服した経験をもとに、現在小児がんで苦しむ子やその親御さんと悩みを共有する時間を設けました。

あるお母さんは「いつか娘が亡くなってしまうのでは



ハウラとアラブ人患者アダン

といつも心配だ」と語っており、その時間中泣いていました。彼女に対してハウラやスタッフは、「しっかり家を除菌し、薬を飲ませ、子どもに心配をさせずに普通に生活を送らせてあげることが大切」とアドバイスをしました。

現在は白血病を克服し、大学にまで通っているハウラ。彼女の姿は、小児がんと闘う子を持つ親御さんに勇気を与えていました。

◆サヘル・ローズさんの訪問と、 シャハワンさんとの出会い -10 月

10 月、女優のサヘル・ローズさんが JIM-NET ハウスを訪問くださり、小児がんを患う子どもたちと触れ合う中で、JIM-NET ハウスで暮らしていたある家族と出会いました。

慢性骨髄性白血病(CML)を患うシャハワンさん(32 歳)は、イラン出身のクルド人で、過激派組織 IS (イスラム国)との戦闘に参加するため 2014 年にイラクへ越境、その後白血病を発病し、迫害の危険もあるためイランに戻れなくなりました。

家族を戦争で失い、幼少期に養母と 2 人だけでイラン



左奥シャハワンさん、中央グレーのワンピースがサヘル・ローズさん

から来日したサヘルさん。がんに侵され、異国で生きる孤独と苦しみを知る彼女はその後もシャハワンさん一家と交流を続けています。

11月、サヘルさんのご協力のもと、シャハワンさんのように難民という立場の中でも特に孤立している患者さんたちの薬代を支援するクラウドファンディングを行いました。おかげさまで計60万円を超えるご支援をいただき、少しずつ支援に充てさせていただいております。



JIM-NET ハウスで演奏する SHOGO さん

◆ SHOGOさんライブ -10月

同じく10月、バイオリニストのSHOGOさんがアルビルを訪問され、JIM-NETハウスとダラシャ克蘭難民キャンプにてライブを開催してくださいました。さらには子どもたちに楽器をご寄付いただきました。

奏者と観客の境界がないSHOGOさんの演奏。ノリノリの音楽に、最初は緊張していた子どもたちも次第に立ち上がり、最後は一緒に踊っていました。

★現地スタッフから★ 北イラクのクルディスタンから、こんにちは！ Vol. 2

日本の皆さま こんにちは！

私の名前はラウンドと言います。

現在31歳で、妻と3人の子どもと一緒にイラクのアルビルに暮らしています。

JIM-NET アルビル事務所ではドライバー、そして管理部（アドミン）としてスタッフの活動を支えています。

JIM-NETの事務所にはたびたび、収入がないことから自分の子どものために高額な薬代が払えないと言ってくるお父さんが来ます。そんな彼らの可哀想な姿や、いつもJIM-NETハウスに来ていた子がある日突然亡くなってしまうのを見ると、とても辛いです。

それとは逆に、小児がんを患う子どもたちが笑顔で勉強したり、遊んでいるところを見ると幸せな気持ちになります。特に薬代を支援できた家族や患者の子を見ると、JIM-NETで働けてよかった、という気持ちになります。

日本の皆さま、いつもJIM-NETの活動とイラクの人々を支えてくださりありがとうございます。皆さまの活動で、大変な境遇にある人たちにも希望を届けることができます。

ラウンド・ホシャール・アフマド より





◆JIM-NET ハウスでのアクティビティ -12 月

12 月は、たくさんのアクティビティが行われた月になりました。そのいくつかをご紹介します。

①フラワーブーケアクティビティ



JIM-NET ハウスが建っているナナカリ病院の敷地内に咲いているお花をいただき、子どもたちとフラワーブーケを作成しました。葉や棘を丁寧に取り除いた後、ナナカリ病院の患者さんや患児の子どもたちに届けました。

②「クルド旗の日」

「国を持たない最大の民族」とも呼ばれるクルド人。イラクのクルド人自治区では、年に何度かクルドの文化を祝う日があります。12 月 17 日はその一つ、「クルド旗の日」です。子どもたちもおめかしをして、国旗を持って写真撮影をしたり、クルドの愛国歌を歌ったり、またアラブ人の子どもたちとも一緒にイラク国歌である「マウテニー」を歌いました。

③クリスマスパーティー



「イスラム教が主流のイラクでクリスマス？」と思われるかもしれませんが、プレゼントをもらえるこの日は、イラクの子どもたちにとっても一大イベントです！この日は隣接する大学の有志の学生たちが、子どもたちのためにクリスマスパーティーを企画してくれました。トナカイの着ぐるみを着た学生さんが場を盛り上げつつ、クイズ、お絵描きなどを中心に子どもたちの笑顔の絶えないパーティーとなりました。

◆シリア難民緊急医薬品支援

今年度、シリア難民支援としてイラクのクルド人自治区内にあるバルダラシュ難民キャンプと、シリア国内にある国内避難民キャンプに対する緊急の医薬品支援（抗菌薬・糖尿病治療薬・妊産婦用サプリメント等）を行いました。資金は、今年度のシリア支援予算の他、緊急の呼びかけに対して、多くの方々から頂戴した募金を充てさせていただきました。誠にありがとうございました。

バルダラシュ難民キャンプ緊急医薬品支援

10 月 9 日のトルコ軍・シリア反政府軍によるシリア北東部への侵攻以降、イラクには約 2 万人が、シリア国内では



バルダラシュ難民キャンプに医薬品を届けたラウンド（中央）とリーム（右）

約 25 万人が新たに避難民となりました。ドホーク県に位置するバルダラシュ難民キャンプは、新たにイラクに逃れた人々の内、約 1 万人が暮らしており、医薬品をはじめ多くの物資が不足していました。現地の保健局の要請に基づき、JIM-NET では 2019 年 12 月と 2020 年 2 月の 2 回に分けて計 7,000 米ドル（約 77 万円）分の医薬品支援を行いました。

シリア国内医薬品支援

2 月初旬、シリア人スタッフのリームがシリアに渡航し、シリア国内の避難民キャンプに対して医薬品支援を行いました。現地のクルド赤新月社の要請のもと、シリア北東部ハサカ県に位置するワショカニ難民キャンプに対して 6,000 米ドル（約 66 万円）分の医薬品を届けました。

約 7,500 人が暮らす同キャンプでは、外国の NGO や国連の支援も入っておらず、現地の自治体のみが支援しています。キャンプ内に診療施設はなく、簡易テントと救急車をモバイルクリニックとして利用しています。キャンプの緊急性に鑑みて、JIM-NET では 3 月にもう一度、5,000 米ドル（約 55 万円）分の支援を計画しています。また、キャンプ内にはがんを患う子どもが少なくとも 3 人確認されており、彼らは治療のために 1 時間半かけて大きな病院に通わなければなりません。赤新月社からの情報をもとに、JIM-NET では彼らの治療の支援も検討しています。





JIM-NET ハウスで音楽ライブ!

斉藤亮平 (JIM-NET 海外事業担当)

「アイシャが笑ってる・・・！アイシャのあんな表情、初めて見たよ。」

隣で JIM-NET 現地スタッフのバルザンが嬉しそうに弦を弾きました。アイシャだけじゃない、他の子どもたちも、いつも看病に疲れ切っているお母さんたちも、みんな表情の柔らかいこと！

いつもは子どもたちが学習するために使うクラスルームがこの日は音楽ライブ会場へと様変わり、笑顔溢れる温かな 1 日となりました。

難民キャンプ専用バンド「ババガヌージュ」が JIM-NET ハウスで音楽ライブを開いたのはまだ暑さが残る 10 月 2 日のこと。ババガヌージュにとって JIM-NET ハウスがイラク初のライブ会場となりました。

この日は日本からミュージシャンたちがやってくるということで患者の子どもたちもいつもとは違う様子。「ねえ、まだ始まらないの？」と控室にやってくる子やクルド衣装を纏った子、また兄弟を連れてくる子もいました。そして楽しみにしていたのは子どもたちだけではありません。携帯で撮影の準備を整えたお母さんたちは、ライブの開始を今か今かと待ち構えている様子でした。

ライブが始まると、最初こそ緊張の面持ちだった子どもたちもクルド語の歌の演奏が始まると誰からともなく手拍子が起こり、あっという間に手拍子と大合唱の渦。パーカッションのけんじさんも加わり、ライブは最高潮へ！ピアノを弾きながらふと客席を見渡すと目の前に広がったのは、そこにいた人たちのほころんだ顔、顔、顔。

子どもたち、お母さんたち、現地スタッフ、皆の弾んだ表情にただただ嬉しさが込み上げてきました。

ライブ終了後、「触らせてほしい！」と楽器の元へ駆け寄る子どもたち。特にバイオリンを初めて見たという子が多く、SUGIZO さんが出す音をじっと隣で聞いたり、試しに弾かせてもらったり、目をまん丸くしながら楽しそうに楽器と触れ合っていました。

日頃は痛みや不安の中で懸命にがんの治療に臨んでいる子どもたちとその家族。厳しい状況の中を生きる人たちですが、彼らの楽しそうに音楽を聴く姿からは強大なエネルギーをもらい、また彼らに音楽が届けられたらいいなと強く思うライブとなりました。



クルド衣装を纏ったアイシャ。バイオリンを目の前に笑顔がこぼれる。

注) ババガヌージュ・・・2016 年にヨルダンの難民キャンプで避難生活続けるシリアの人々を訪れた LUNA SEA 及び X JAPAN の SUGIZO さん (Vn.) を中心に、フォトジャーナリストで Dialogue for People 所属の佐藤慧さん (Gt.) と JIM-NET 海外事業担当の斉藤亮平 (Pf.) と共に結成された難民キャンプ専用バンド。



～ 2019年度に開催されたイベント～

♥音楽×チョコレート＝平和

2019年 11月2日(土) 牛込筆筥区民ホール

登壇者: ババガヌージュ = SUGIZO (Vn.)、佐藤慧 (Gt.)、斉藤亮平 (Pf.)、安田菜津紀 (フォトジャーナリスト)、湯川れい子 (音楽評論家・作詞家)、Singers for Peace (ゴスペルシンガー)、鎌田實 (JIM-NET 代表)

チョコ募金 15 回目と JIM-NET 15 周年を記念するチャリティートーク&コンサートでは、10 月にイラクを訪問したババガヌージュ (難民キャンプ専用バンド) の皆さんとイベントのために結成されたゴスペルグループ・Singers for Peace をお迎えしました。

トークセッションは、現地取材でもお世話になっている安田菜津紀さん (フォトジャーナリスト) の司会で、登壇者の方々から貴重なお話を引き出してくださいました。



SUGIZO さんのステージ衣装をチョコ缶のコーラージュで制作された鶴田能史さんと鎌田代表。衣装の裏地には、安田菜津紀さんの写真が使われています。



エンディング「チョコ募金」を皆で応援！



「チョコレートのうた・英語版」の制作やチョコ募金のポストカードをデザインしてくださった筑波学院大学メディアデザインコースのみなさん。

♥異国で生きる孤独

～イラン人がん患者、シャハワンさんと出会って～

2019年 11月24日(日) 南大塚地域文化創造館第 1 会議室

登壇者: サヘル・ローズ (女優)、斉藤亮平 (JIM-NET 海外事業担当)

サヘル・ローズさん (女優) は、昨年 10 月にイラクを訪問し、JIM-NET ハウスで CML (慢性骨髄性白血病) を治療中のクルド系イラン人のシャハワンさんとお会いしました。サヘルさんご自身の経験を通し、異国の地で闘病を続けるシャハワンさんご家族の苦しみと孤独を中心にお話してくださいました。(詳細は 2～3 ページ)

サヘルさんが JIM-NET ハウスを訪れた際に作ってくださったショレーザード (黄金のライスプディング) を再現してくださいました。お米、砂糖、サフラン、バター、薔薇水で作られているので、会場は優しい香りで包まれました。

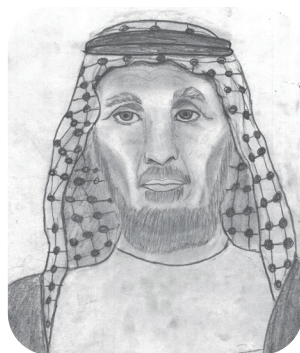




♥イラク少女たちのものがたり

2020年 2月7日(金)～2月12日(水) ギャラリー日比谷

サブリン、ナブラス、そしてハウラの原画展示には、昨年の夏にハウラがお父さんと JIM-NET ハウス訪問時に持参した最近のデッサンも加えられました。展示期間中は、イラク駐在員・牧野アンドレも在廊し、JIM-NET ハウスで過ごす子どもたちや難民キャンプ等の写真パネルとともに現地のことをお伝えすることができました。



ハウラが描いた両親のポートレート

ハウラから tenbo さんへのメッセージ

こんにちは tenbo さん、お元気ですか？
私はあなたのような著名なデザイナーの方が私の絵に興味を持ってくれて、そして私の絵で洋服をデザインしてくれたことが、とてもとてもうれしいです。
JIM-NET をサポートし、がんの子どもたちを助ける一役を担ってくれて、本当にありがとうございます。
いつか tenbo さんとお会いして、一緒に絵を描きたいです。
イラク国内は 10 月から緊張状態にあります。
私が生まれてから、イラクはずっと混乱の中にあり、「平和」というものを経験したことがありません。
私の住む地域も常に緊張していて、大学に行けない日もあります。
私の故郷であるイラクの地とイラクの仲間たちに、これ以上血が流れないことを願っています。
最大の感謝と敬意をこめて。

ハウラ



牧野アンドレの「ミニ報告会」では、様々な質問が投げかけられ、来場者の方々とお話しすることができました。また、鎌田代表も登場し、急速トークに参加しました。



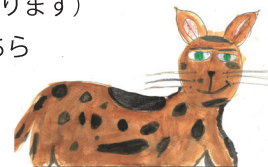
TENBO × JIM-NET 「幸せの方舟」。

鶴田さんとイラクの子どもたちが描いた絵のコラボでデザインされたTシャツ、スカートやマグカップは、子どもたちが描いた原画に元気で明るいエネルギーが吹き込まれました。

(売上の一部は JIM-NET への寄付となります)

↓鶴田さんのブランド・tenbo はこちら

<https://www.tenbo.tokyo/>



♥チョコ募金へのご協力、ありがとうございました！♥

今回もたくさんのお申し込みを頂戴し、無事に2月上旬に今年度分の受付を終了することができました。温かなご支援に心から感謝申し上げます。

「チョコ募金の時期が来ましたね!」「待ってました!」など、皆さまからチョコを応援するメッセージを頂き、スタッフの励みになっております。

チョコを提供いただいている六花亭様をはじめ、多くの方々によるご協力とご支援を賜り、改めて感謝申し上げます。

皆さまから頂きましたご寄付は、大切に子どもたちのために使わせていただきます。引き続き今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。





KAMATAの
つばやき

9年目の3.11 福島では…

福島では、子どもたちの甲状腺がん健診が行われています。一時期「健診をやめるべき」との声も上がりましたが、「続けるべき」との声が多く、現在も続いています。

県民健康調査委員会のデータをみると、2018年12月末から2019年10月まで、6人甲状腺がんが増えました。評価は分かれますが、とにかく「やり続けること」が大事だと思います。がんの疑いも含めると、昨年の10月時点で231人となっています。慎重にフォローが必要な数字だと思います。

JIM-NETは福島の子どもの命を守るいろいろな活動をしている小さな団体に、活動が継続できるように、少額ではありますが支援を続けています。僕が代表をもう一つ務めるJCF（日本チェルノブイリ連帯基金）では子どもの甲状腺がん健診を信州大学で行ったり、夏休みに信州に遊びに来てもらう活動を続けています。

芥川賞作家の柳美里さんが、南相馬市の小高駅から2分ほどのところに「フルハウス」という書店をつくりました。鎌田も応援者になって、「鎌田が10代にもう一回戻れたら読みたい本20冊」などが売られています。クラウドファンディングで、電車通学をしている高校生たちが、電車を待つ時間のカフェを開く準備もしていました。裏にあった工場は、演劇がやれる空間です。高校生や南相馬の市民たちが、役者になって芝居をやっています。

9年目の「3.11」では、双葉町や富岡町の夜ノ森を見て歩きました。夜ノ森は住むことが許可されて、帰ってきた人たちがいました。

夜ノ森駅の真ん前には、「まぼろしの美容室」がありました。始めは月に3日ほどしか開いていませんでしたが、避難している人たちも、富岡に戻ってきた人たちも、男性も女性も、噂を聞きつけて徐々にやってくるようになり、皆の憩いの場になっています。男の人でもここで髪をカットしたりしてもらっているようです。だんだん男の人たちがお洒落になりました。

双葉町は96%が「帰還困難区域」です（2月29日執筆時）。双葉南小学校に行きました。教室の中は、子どもた

ちのランドセルや体操着などが散乱していました。ちょうど終業式が近づいており、机を廊下に出してワックスがけをしていたようです。机の下に隠れるという地震の訓練は何度もやっていたようですが、その隠れる机もありませんでした。子どもたちは教室の真ん中に集まって、手と手を握り合いながら、地震の揺れに耐えたようです。その後も余震が続いて、校庭に出た子どもたちは教室に戻って、ランドセルを持つ余裕がなく自宅へ帰りました。

その後、原発から3キロゾーンということで、次々に避難命令が出て、自分の体操着やランドセルを一人も持ち出すことができませんでした。町に入ることができないため、そのランドセルや体操着が、今もそのままです。どんなに怖かっただろうか。呆然と佇んで、涙が出ました。そのとき5年生だった子どもは、今年の1月、成人式を迎えました。県外に避難した子どもも多く、辛い9年間だったと思います。大きな揺れの中で、クラスの友だちと抱き合って耐えたあの感覚を忘れないで欲しい、と思いました。

人は、一人では生きていけません。友だちや仲間が必要なのです。3.11の震災で辛い思いをした子どもたちが、それを乗り越えて、活躍する 때가迫っているように思います。若い人たちに期待をしたいと思います。

チョコ募金は、皆様のおかげで大成功をおさめました。募金の中から福島支援を、さらに発展的に使いたいと思っています。これからも、お力添えをお願いいたします。

鎌田 實（JIM-NET代表・医師）



夜ノ森では「寂しくてしょうがない」って、集まってお茶会をしていました。

